

日本体育大学

令和 8 年度入学者選抜 【出題の意図・模範解答】

学部・選抜方式	児童スポーツ教育学部 幼児教育保育コース 総合型選抜 学部別選考方式 I 期
科目	小論文

【出題の意図】

- ・保健体育科等の教科書にある SDGs に関する情報、その内容を理解できているか。
- ・SDGs に関する地域社会での活動または自身の生活における取り組みを考察し、その内容を具体的且つ論理的に説明することができるか。
- ・SDGs に関する取り組みについて、子どもへの説明を問われた際、子どもの生活や遊び、保育園等や家庭においてどのような教示法を実践しようと試みるか、自分なりの考えを例に挙げて説明ができるか。

【模範解答】

私の身近な社会では、保育園や小学校等の地域の教育施設を中心に、環境保全や共生社会の実現に向けた SDGs の取り組みが進められている。例えば、地域の公園や海岸での清掃活動、地元農家と連携した野菜栽培や稲作の農業体験がある。地元の農産物を直売所で購入して施設や家庭で調理したりする体験は、食の循環や環境負荷の軽減、社会の協働性を体感できる活動だと捉えられる。私は買い物の際、食べ残しを減らすために食材の必要量を計画的に買ったり、賞味期限が近い商品を積極的に選んだり、ゴミ削減のためにマイバックを持参している。また、定期的に地域の高齢者施設で体操指導のボランティアを行ったり、子育て支援施設でバザー等のイベント運営補助を行ったりしている。これらは、SDGs の目標 11・12・13・14・15・17 に深く関わっていると考えられる。

子どもが SDGs に関心をもち、自ら関わるようになるためには、日常生活での体験と対話を通じて身近なことと結びつける働きかけが重要だと考える。例えば、保育園等では牛乳パックや空き箱を使った製作活動を行い、ものを大切に使うことの意味を子どもが感じられるようにする。ゴミ拾いの後に、「なぜゴミを拾うのかな?」と問いかけ、子どもがその行動の意味を考える機会をつくり、自分の行動が社会に役立っていると実感できるような活動を積極的に取り入れたい。また、家庭では、買い物の際に「どちらの方が環境にやさしいかな?」や、電気を消す際に「地球を大切にするためにできることって何だろう?」と話し合ったりすることで、子どもが自分の行動と自然や社会とのつながりを意識するきっかけをつくりたい。

このように、SDGs は日常の生活や遊びの中の実体験と気づきを通じて理解することができる。私は、子どもが身近な体験を通して社会課題に関心をもち、自ら考え行動する力を育むことが、持続可能な未来につながると考える。